

自動走行車による解決可能な行政課題について

- 実証エリアにおいて、自動走行車を活用することにより解決できる行政課題についてご記入ください。
- 交通不便地対策、高齢者対策など複数テーマがある場合は、それぞれご記入ください。

市町村名 豊明市

担当課・担当者氏名 産業振興課 和 藤 健

連絡先 0562-92-8312

テーマ 交通不便地対策

豊明市は、名古屋市の南東に位置し、ベッドタウンとして発展してしてきました。

しかし、近年の高齢化率は、23.8%を超え、将来的に超高齢化社会に向かう一方です。

この高齢化する市民ニーズに利便性の高い公共交通の実現があります。そこで、本市では、地域の公共交通を0ベースで見直し、新たな公共交通のあり方を検討することとしています。

現在、本市中心部には、名鉄名古屋本線前後駅を発着点とした路線バス、コミュニティバス、が運行しています。タクシーについても、前後駅を待機拠点として営業しています。

しかし、実証試験路線となる本市東部は、名鉄名古屋本線豊明駅(乗降4500人/日)があるものの、バス路線については、コミュニティバス(3号路線)が、1日5本運行しているのみで、さらに市役所又は文化会館で乗換が必須となる路線での運行のため、到着時間が長時間化し利用率の増加が図られていません。

このことから、鉄道とバス、さらには公共交通の不便さから豊明駅周辺地域の活性化に影響しています。

【平成26年度 コミュニティバス利用状況】

	乗車数(人)	料金収入(円)
1号	61,577	3,111,300
2号	69,723	3,650,100
3号	25,723	794,400

利用者アンケートによって

利用者の70%以上が高齢者

←実証試験路線を運行するコミュニティバス

また、この実証試験路線の沿線には、公共施設やスーパーがなく、市内中心部への移動手段もコミュニティバス、タクシーに依存するしかない状態であり、高齢者の外出には、不便な地域となっています。

このような背景から、豊明駅を拠点とした公共交通は、バスの大規模輸送ではなく、利用者需用にマッチした、コンパクト輸送が最も適しており、今回の実証試験は、たいへん有意義なものと考えています。

自動走行車による交通確保は、交通不便地域の解消と併せ、豊明駅の利用促進を図り、駅周辺の活性化、さらには、高齢者の生活の向上など、様々な問題解決の糸口になると確信しています。

自動走行車の実験走行ルートについて(複数ルートも可)

1 区間(出発地点→到着地点)

豊明駅→小所老人憩いの家

2 地理条件(バスルートの有無、地域の状況を記入)

小所老人憩いの家の周囲半径300mには、約500人、181世帯が居住しています。

豊明駅は、毎日約4500人が乗降している駅です。

当該区間には、コミバスのみが運行していますが、豊明駅から小所まで行くには、市役所、文化会館を經由して約1時間40分を要します。そのため、豊明駅からの利用者がいない状況です。

そのため、豊明駅から小所地区への直通輸送が望まれています。

なお、当該区間については、刈谷市を結ぶルートであることを除き、他地域からの流入はありません。

既存の民間路線バスはなく、利害が込み合うことはありません。

3 道路条件(参考の「2 道路条件」について記入)

当該区間は、約2.5km

全線白線引き

片側1車線対面通行

全線歩道による歩車分離です。

信号交差点以外の流入は少ない

トンネル区間なし

4 その他(参考の「3 その他」について記入)

関係機関との調整には協力できます。

実験車両の待機については、豊明駅ロータリー、小所老人憩いの家が可能です。

5 走行ルート(地図)



6 写真(下記のものを添付してください。Googleストリートビューも可)

(1) 実験車両待機場所



豊明駅ロータリー



小所老人憩いの家

(2) 道路の様子



① →

②



↓



④ ←

③



(3) 出発地、到着地(スーパー、病院など)

出発地(豊明駅)



到着地(小所老人憩いの家)







① 豊明駅口一タリ一



② 国道1号豊明駅東交差点



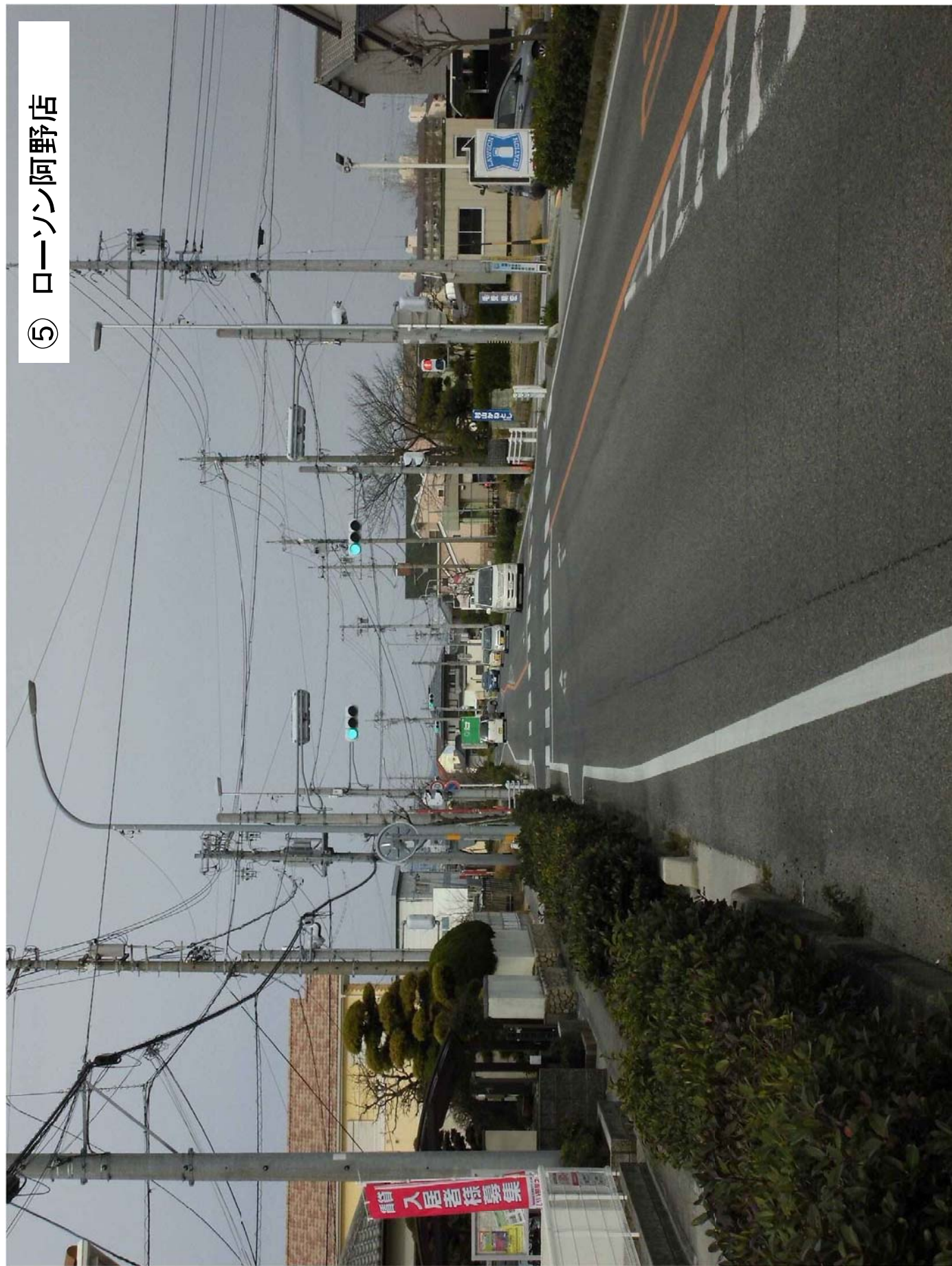
③ イレブンハイツ前



④ サークルK 阿野店



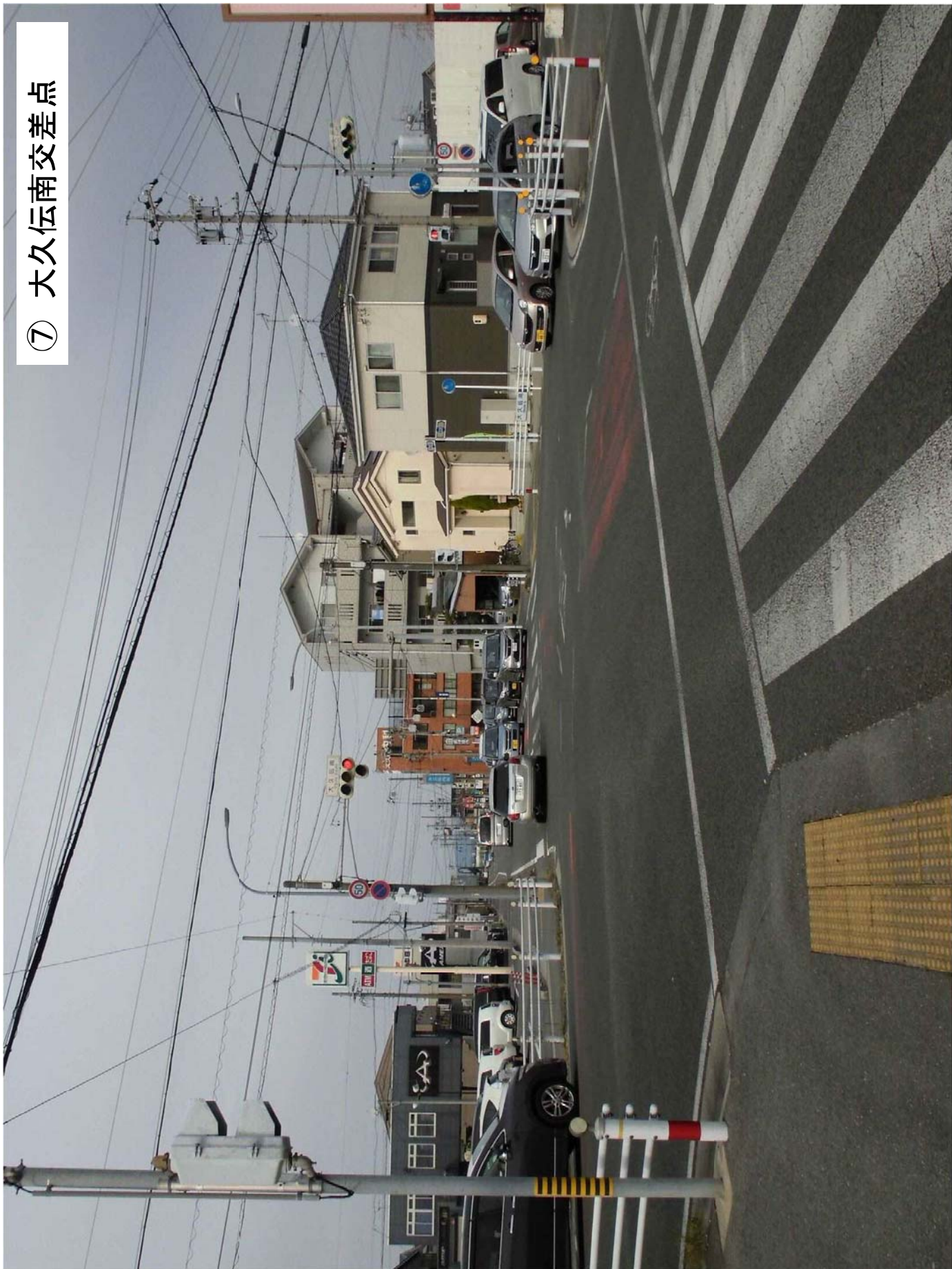
⑤ ローソン阿野店



⑥ 中立電機前丁字路



⑦ 大久伝南交差点



⑧ 大久伝東交差点



⑨ 小所交差点

